

発達障害のある人たちへの支援

—年代別の生活に合わせて—

信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室
附属病院子どものこころ診療部
本田秀夫

1

発達障害とは？

- 行動特性になんらかの特記すべき異常がある
- その異常は乳幼児期からみられ、成人後も残る
- その異常が要因となって、生活に支障をきたす



2

発達の「異常」とは？

発達が

正常でない・・・間違い 悪い

通常でない・・・少数派

3

症状の軽さと社会適応の良さとは 必ずしも比例しない

症状が重い人

- あらゆるライフステージで本人、周囲とも困る
- 会話がかみ合わない、対人関係がとれない
- 頻繁にパニックを起こす

症状が目立たない人

- 幼児期前半は、何らかの発達の異常に保護者が気づくことがあるが、就学前後までに改善し、保護者はひと安心
- 本人は一貫して違和感を覚えながら生活し、前思春期頃に身体症状、うつ、不安、強迫などの精神症状、不登校、いじめ被害などが生じやすくなる

4

知的能力障害／知的発達症

- 社会適応の障害が、全般的な知能の発達の遅れのみで説明できる場合の診断
- 知能検査によって知的水準の評価がなされる
- 「知能が低い」以外、通常の人と何ら変わりがない

5

限局性学習症／限局性学習障害(LD)

生活能力やコミュニケーション能力は問題ないのに

読み、書き、算数の少なくとも1つが極端に苦手

6

注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害 (ADHD)

子どもの頃から そそっかしい

態度や行動に落ち着きがない、あわて者である。
不注意で、とかく失敗をしがちである。軽はずみ
である。(『大辞泉』より)

7

自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder: ASD)

- 臨機応変な対人関係が苦手
- 自分の関心、やり方、ペースの維持を最優先させたいという本能的志向が強い
- これらの特性が幼児期からみられる
- これらの特性のため、社会生活上支障をきたす

自閉スペクトラム
(Autism Spectrum)
の特性

自閉スペクトラム症
(Autism Spectrum Disorder)
の診断

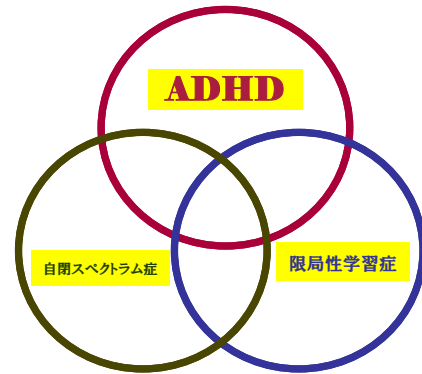
8

感覚の特徴

視覚的な情報に注意が強く引かれやすい

さまざまな感覚過敏／鈍磨

9



発達障害は、しばしば重複する

10

自閉スペクトラム症(ASD)の特性の一部は、
他の発達障害の併存で目立ちにくくなる

注意欠如・多動症(ADHD)の併存

固執傾向が弱くなる

限局性学習症(SLD)の併存

読字が得意でなくなる

発達性協調運動症(DCD)の併存

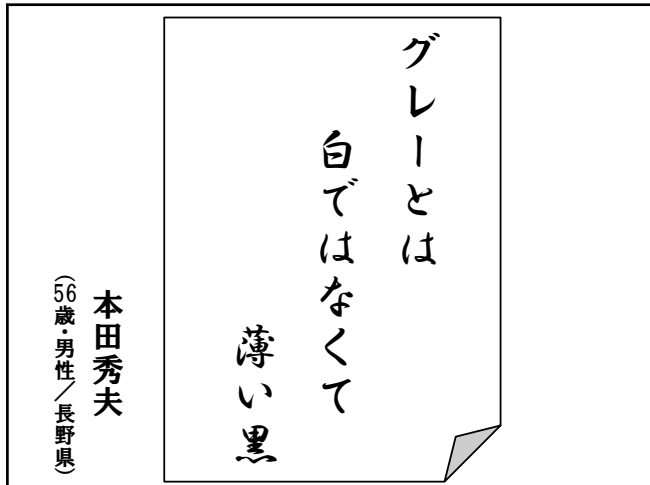
作業能力が得意でなくなる

11

小児期から成人期にかけての 発達障害特性の変化

- 就学後に知能が大幅に上昇する症例は稀である
- 自閉スペクトラム(AS)の対人行動の質的異常は、軽減するがゼロにはならない
- ASの興味の限局やこだわり行動(RRB)は、形態や様式を変えながら持続する
- 注意欠如・多動(ADH)の多動・衝動性は、軽減するがゼロにはならない
- ADHDの不注意症状は、幼児期・学齢期より青年期・成人期の方が問題となりやすい

12



13

非障害自閉スペクトラム

(Autism Spectrum Without Disorder:ASWD)

ASの症状は残存している
しかし、社会適応は悪くない
むしろ適応の良好な例も少なくない

(本田, 2012)

14

発達特性と育ち方

- 発達特性は生まれつきであり、育て方が原因ではない
- でも、成人期までにどう育つかは、育て方次第

15

育ち方の4タイプ

- 特性特異的教育タイプ
- 放任タイプ
- 過剰訓練タイプ
- 自主性過尊重タイプ

16

特性特異的教育タイプ

- 個々の発達特性に応じて必要な課題
- 本人が興味をもって取り組める手法
- 少しの努力で短期間に達成可能な目標設定
- 他者に気軽に相談できる環境の提供

17

放任タイプ

- 発達特性に対する理解が全く得られない環境
 - 通常の子育て・教育環境
 - 子どもがネグレクトされている環境
- 場当たりの対応になりがち
- さまざまな形で頻繁に周囲と軋轢

18

過剰訓練タイプ

- 発達特性を周囲が否定
- 苦手領域の克服のため、本人に過重な課題を与える
- 本人が好きで得意なことは認めない

19

自主性過尊重タイプ

- 支援者が本人のストレス軽減だけを重視
- 何の教示もせずすべて本人の意志にまかせる
- 学校の成績が優秀なケースなどに多い

20

児童期に発達特性に気づかれなかった人たち

- 身体症状症、不安症、強迫症、適応障害、気分変調症、複雑性PTSD、解離、摂食障害、ゲーム・インターネット・ギャンブル等への依存など、多彩な精神症状や行動の問題を呈する(いわゆる「二次障害」)
- これらの精神症状を主たる問題として経過を追っているうちに、背景にあるわずかな問題として発達特性が浮かび上がってくることもある
- 本人が発達障害ではないかと思って受診する場合でも、生活の支障が長期間続いていることによる二次障害を伴っていることが多い

21

成人例において、 発達特性はパーソナリティの一部

- 発達特性が顕著な場合を除いて、密な医療の対象とはならないことも少なくない
- 感覚過敏が生活の支障となる人は、ごく一部にすぎない
- 統合失調症または双極Ⅱ型障害を発病した症例も、少数ながら経験している

22

雑談

「12月23日からE353系が営業運転を始めるらしいよ」

「3編成で、1日に4往復だって」

「E351系は振り子式で乗り心地が悪かったから、廃車でもしょうがないかも」

「本当！何編成？」

「え、じゃあ、E351系はどうなるんだろう。踊り子号に回ったりするのかな？でももうだいぶ古いから、廃車になるかもね」

「E353系は空気ばね式車体傾斜装置の導入で振り子式に比べて自然な乗り心地らしいから、楽しみだね」

… 相互的で、内容もしっかり噛み合っている

23

雑談

「うちの子ったら、きのう宿題を忘れたのよ」

「この間だって、先生が言ったことをなんにも聞かないで、ノートにも書いてないから、家で気をつけようと思ってもできないわ」

「あっ、もうこんな時間だからいなくなっちゃ。じゃあ、またね」

「うちの子も、いつも忘れ物ばかりよ」

「うちの子の先生は、忘れ物チェック表というのを配ってるのよ。毎日それを見れば忘れ物なくてすむはずんだけど、うちの子はそれも忘れるもんだから、困っちゃう」

「うん、じゃあね！」

… 形式は相互的、でも互いに自分のことしか話していない

24

コミュニケーションの目的

AS的コミュニケーション

情報を交換することが目的
興味のない話題では、会話の必然性がない

非AS的コミュニケーション

コミュニケーションをとること自体が主たる目的
会話を維持するために話題を仕入れることもある

→ 正常と病気ではなく、スタイルが多数か少数かの問題

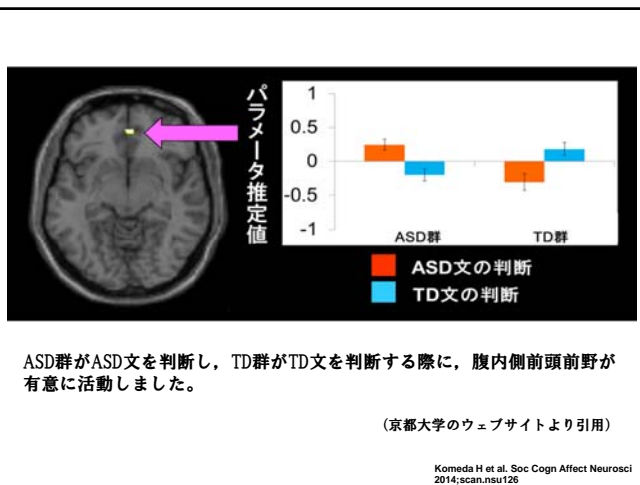
25

選好性(preference)の違い

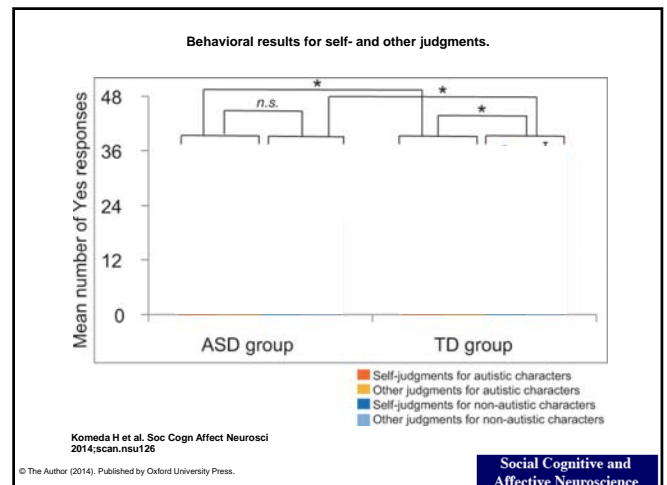
	1	2	3	4	5	6	7	8	計
岩尾	6	5	9	3	10	3	5	8	49
後藤	5	4	8	7	11	7	6	9	57
又吉	12	4	5	3	8	6	10	7	55
綾部	11	12	5	4	8	5	9	9	63
原西	8	6	9	4	6	12	13	7	65
藤本	10	2	7	9	6	9	5	8	56



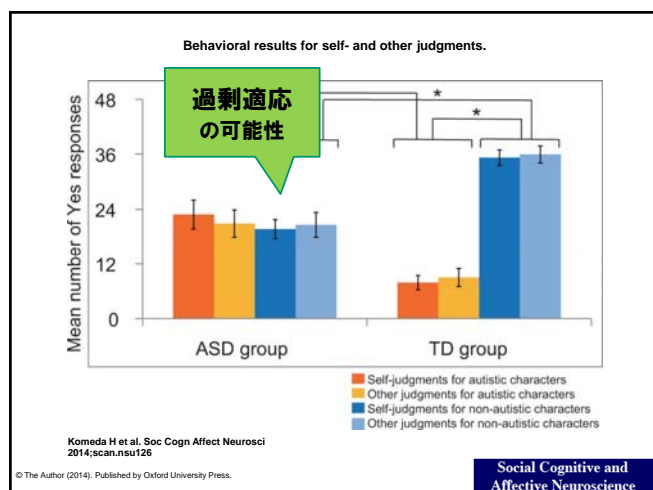
26



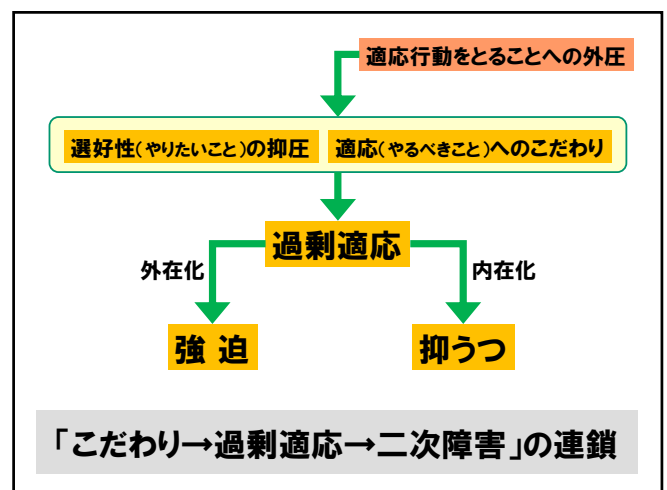
27



28



29



30

Aさん:5歳の女の子

保育園のランチルームでうるさいと頭が痛くなってイライラする
何かをしているときに邪魔されるのが嫌だ
友達にごっこ遊びを誘われるのが嫌だ
人の口に触れたものは触りたくない
大きな声で挨拶されるのが嫌だ
粘土の匂いが嫌だ

31

「やりたいこと」と「やるべきこと」

- 自閉スペクトラムの人は、やりたくて始めたはずなのに、つい自分でノルマを課してしまいがち
- ストレスが強い環境では、「やりたいこと」と「やるべきこと」が混然となることがある

32

発達障害の人たちの過剰適応

- 発達障害の人たちにとって現代の日本は、集団のなかで息をしているだけでも、相当なストレスを感じる社会。
- 一見ふつうに振る舞うだけで、すでに過剰適応していると言っても過言ではない。

33

「みんなも我慢している」は、虚構

みんなは、

発達障害の人たちほどには

我慢していない

34



(本田秀夫, 日戸由利監修: ADHDの子の育て方のコツがわかる本, 講談社, 2017)

35

珍しく忘れ物がなかった!

- ラッキーだったと喜ぶ
- でも、次回以降は徐々に忘れ物が減るだろうと、決して期待してはならない

36

普段はルーズでいい加減

でも、

だけ

肝心なときは絶対に失敗しない！

37

支援の目標

「コツコツ」よりも「一発勝負」

「前もって」よりも「ギリギリセーフ」

38

やればできる！

周囲の視点

…だから普段からちゃんとやってほしい

本人の視点

…だから普段はやらなくてもいい

39

発達心理学の進歩が招いた混乱

発達心理学の意義:

平均的な発達の実態がわかる

……(統計的理解)

世間では:

すべての子を定型発達に沿わせようとする

……(発達課題の「ノルマ化」)

40

近年の発達心理学からわかってきたこと

子どもの発達は、かなり多様性がある

いろいろな領域が同時に均等に伸びるわけではない

41

発達の最近接領域 (ヴィゴツキー, L.S.)

自力では到達できないが、

他者の援助があれば問題解決が可能な水準

42

支援の専門性とは？

- ・適切な発達の最近接領域を見極めること
いま、獲得可能なこと
まだ、獲得不可能なこと
- ・予後の見通しに沿って、補完的アプローチを
ためらわないこと

43

早期は大事！では、何をする？

~~早期発見, 早期訓練~~



早期発見, 早期ブレーキ

44

思春期より前の育児方針

- 保護的に構造化された環境を提供する
- 得意なことを十分に保障する
- 不得意なことに苦手意識を持たせない
- 大人に相談してうまくいったという経験を持たせる

45

パン屋で見かけた親子連れ

3歳くらいの女の子を連れて夫婦がパンを選んでいた。女の子は両親のそばを離れ、陳列されたパンに手を伸ばして素手で取ろうとしていた。それに気づいた父親が叱ると、その瞬間だけ女の子は手を引っ込めるが、しばらくすると別のパンにまた手を伸ばす。そのたびに父親は叱る。3度目から、父親はすごい剣幕で怒鳴りつけるようになった。それでも女の子はやめない。それを見た母親は、「あらー、そんなことしたら怒られちゃうわよ」と軽い感じで言いながら、買い物を持っていた。

46

社会参加可能性を測る目安

自律スキル

- 自分にできることは意欲的にやる
- できないことは無理しない

ソーシャルスキル

- できないことを相談できる
- 人として最低限守るべきルールを守る

47

自律スキルとソーシャルスキルの両立の鍵

合意



48

構造化は合意のはじまり

先に
おとなから

こどもは

'提案' と '同意'

~~'命令' と '服従'~~

~~'受容(放任)' と 'やり放題'~~

いいかい?

OK!

49

家庭内に掲示されている物

1ヶ月の予定を記入した
カレンダー

その日の家族の予定
カード

状況に応じた予定伝達方法の使い分け

通常の予定伝達

特別な予定が
入ったとき

終わったカードは
「おしまい」の袋に入れる

ボランティアなどの外出時などの携帯用

家庭での取り組みの例(知的障害を伴う場合)

50

社会的ルール

51

思春期以降の支援方針

“支援つき試行錯誤”

52

支援つき試行錯誤

- 共感しながら試行錯誤につき合う
- 情報提供と考えの整理は行うが、助言は控える

53

相談したいこと： コミュニケーションが苦手
作業が遅い
いい仕事につけないのではないか

プランA： いまのままでできる仕事を探す
時間はかからない
給料は安いかもしれない

プランB： コミュニケーションや作業を伸ばす
給料が高い
時間がかかる

54

試行錯誤:定期的に方針の見直しを

- 方針の候補は、必ず2つ以上考えておく
- SOSのサインに敏感になる
- 失敗しても、絶対に本人を責めてはいけない

55

つき合い方のエッセンス

共感と合意

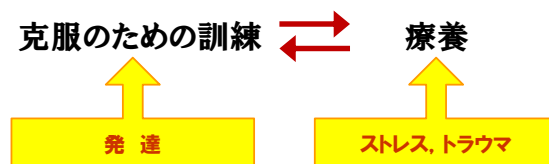
56

成人でも、家族への心理教育は重要

とくに家族主導で受診してくるケースは、本人よりも家族の過干渉にブレーキをかけることが先決。

57

問題改善への2つの方法



58

二次障害:最初のアセスメント

気になる症状が最初に出現したのはいつか
最初に出現したとき、何かきっかけはあったか
本人は、その症状についてどのように解釈しているか
過去に、親、教師(支援者)、友人などで本人への接し方に問題はなかったか

59

『うつ』のある発達障害の人への接し方

- 「〇〇した方がよい」は禁物
- 本人のおかれている状況を言葉で確認する
- 本人が楽しめる話題を探る
- 日常生活の様子を他者から情報収集する
- ノルマの少ない気楽な生活の見本を示す

私見

60

インターネットやゲームにはまりやすい子ども に対する方針

- 教科学習の取引条件にゲームを使わない
- ゲーム以外の趣味を複数みつける
- 教科学習の優先度は最下位に下げる

61

攻撃・暴力

- 本人への行動枠を設定しつつ、周囲の過干渉にブレーキをかける
- 特定の相手への攻撃・暴力がパターン化している場合は、距離をとる
- 本人に相談の意志がない場合、行政的な対応を軸に置く

62

PTSD, cPTSDへの対応

- 家族への心理教育と本人の自己理解促進で生活が改善することが多く、本格的なトラウマ治療までを要するケースは少ない。
- 生活が改善してもなお残存するPTSD症状に対して、トラウマ治療を行う。



63

薬物療法

種類	対象となる障害、症状	例
非定型抗精神病薬	易刺激性(小児期自閉スペクトラム症のみ適用) (興奮、パニック、攻撃的行動など)	リスベリドン(リスパダール®のみ適用) アリピプラゾール(エビリファイ®のみ適用)
抗ADHD薬	ADHD(不注意、多動、衝動性)	メチルフェニデート、アトモセチン、 グアンファシン、リスデキサンフェタミン
抗うつ薬	うつ、不安、強迫	SSRI, SNRIなど
気分安定薬	双極性障害	ラモトリギン、バルプロ酸、 炭酸リチウムなど
睡眠導入薬	不眠	メラトニン(小児の神経発達症に適用)、 ラメルテオン、スボレキサントなど
抗てんかん薬	てんかん	バルプロ酸、レベチラセタムなど

64

進路選択の目安

発達障害のある人では、

- 知的水準から期待される水準の進路を想定すると、不適応を生じる確率が高まる
- 知的水準から期待されるよりも1ランク下の水準の進路を想定すると、予想外に適応できる
- 併存障害があると、知的水準から期待されるよりも2ランク下の水準の進路でも辛くなることもある

65

子どもへの親の願い、成人期の本人の気持ち

親によくみられる就学時の願い

定型発達の子どもたちが周りにたくさんいると、いい刺激を受けるのではないか。

成人期にしばしば聞かれる本人の気持ち

自分だけ他の人たちとは違うという感覚を毎日感じていた。

66

ASDの小中学生では、 登校拒否行動の出現割合が高い

	ASD (N=68)	定型発達 (N=127)	p値
小学生	11 (31.4%)	5 (6.8%)	0.001
中学生	18 (54.5%)	4 (7.4%)	0.000
計	29 (42.6%)	9 (7.1%)	0.000

(Munkhaugen EK et al, 2017)

67

インクルージョンの理念と教育

- 人はみんな多様だから、
参加の仕方はみんな違ってよい
- すべての人が居心地よく参加できるように、
ときにオーダーメイドの支援が必要

→ 特別な教育上のニーズ

<サラマンカ宣言より要約>

68

ユニバーサルデザイン

障害の有無を問わず参加可能な環境づくり

- 段差のない道路, エレベータのある建物
- 音声のでる信号機
- 点字ブロック

69

合理的配慮

個別の配慮によるインクルージョン促進

- 手話通訳
- 教科書の音読ソフト
- 身体障害の子どもへの体育

70

少数派の学習や交流の場の保障

一般の人たちとは異なる独自の学習や交流

- 特別支援教育
手話や点字の学習
知的障害に対する教科学習・生活学習
- 当事者同士の仲間づくり

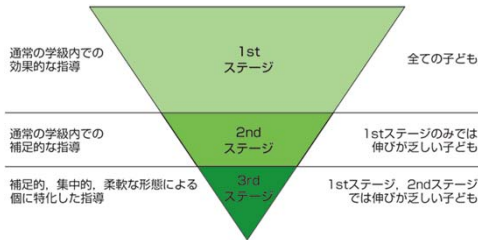
71

現在の「居場所づくり」等の問題点

- 学童期まで、発達障害の児童にベスト・フィットした居場所の提供に否定的
 - できる限り通常学級で頑張って、限界が来たら特別支援学級・通級指導教室へ
 - 通級指導教室は、通常学級でうまくできるようになるための仮の場所
- 不登校傾向が表れて、はじめて別の居場所が提供される
 - 「学習の場所」より「避難場所」の色合いが強い
 - 疲れや二次的なメンタルヘルスの問題への対応に比重

72

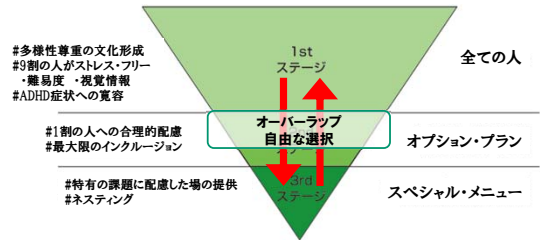
通常の学級における多層指導モデル MIM (Multilayer Instruction Model)



多層指導モデルMIMのホームページより
(http://forum.nise.go.jp/mim/?page_id=27)

73

発達障害の人たちに対する多層支援モデル



74

成人期の発達障害者支援の課題

- 就労中心の支援に偏り過ぎている
- 発達障害の特性に特化した生活支援・余暇活動支援の仕組みが不十分
- QOL (Quality of Life) / 生きがいに関する研究が少ない

75

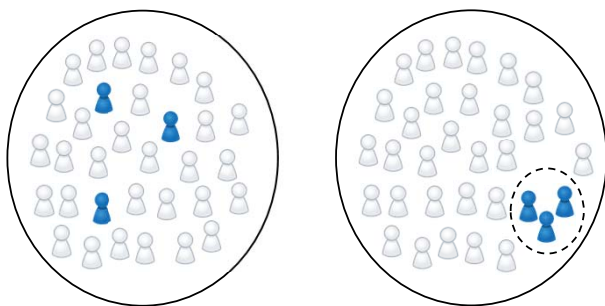
コミュニティケア促進のキーワード

ネスティング (nesting)

活動拠点 (nest) となるサブ・コミュニティを計画的に新規作成し、コミュニティの中に入れて込むこと

(本田ら, 2009)

76



インクルーシブかつアイデンティティの
保障されたコミュニティづくり

77

78

知的障害の人たちの余暇活動支援 あるある

支援者の気持ち

「ふだん経験できないことを経験させてあげたい」

実際の活動:

外食, ボウリング, バーベキュー, キャンプ

当事者の気持ち

「はじめてやって, 楽しかった」

「でも早く戻っていつもやっている楽しいことをやりたい」

79

発達障害の人たちが, 放っておいてもやりたがることは?

鉄道関係

アニメ・漫画

インターネット

ゲーム

…支援者がこれらを提案することは, 少ない?

80

鉄友会

月に1回定期的に集まって, 鉄道に乗った報告や, 自分の好きな鉄道の話を発表します。

実際に鉄道の旅の計画を立て, 皆で出かけることもあります。
(旅の様子については, [こちら](#)をご覧ください。)



アニメ漫画クラブ

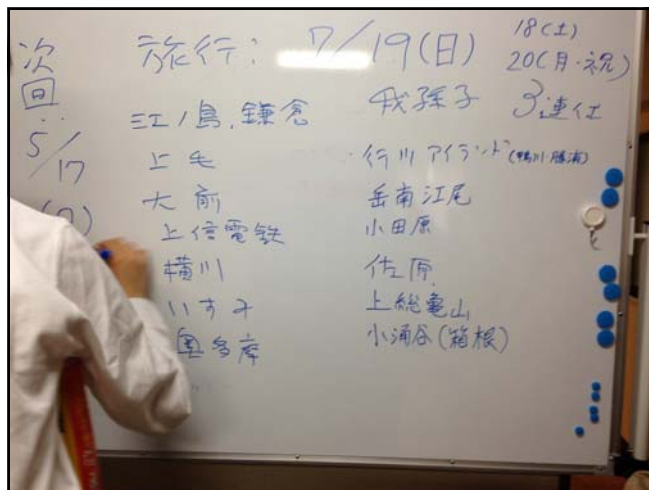
自分の好きなアニメや漫画の話をする場所です。

- ・最近ハマっているアニメや漫画の話
 - ・最近見たアニメ映画の話
 - ・参加したイベントの報告
 - ・聖地巡礼報告
 - ・アニメや漫画のグッズを披露する
- などなど, みんなそれぞれ楽しみながら交流しています。

[アニメ漫画クラブ初代ポスター](#)です。



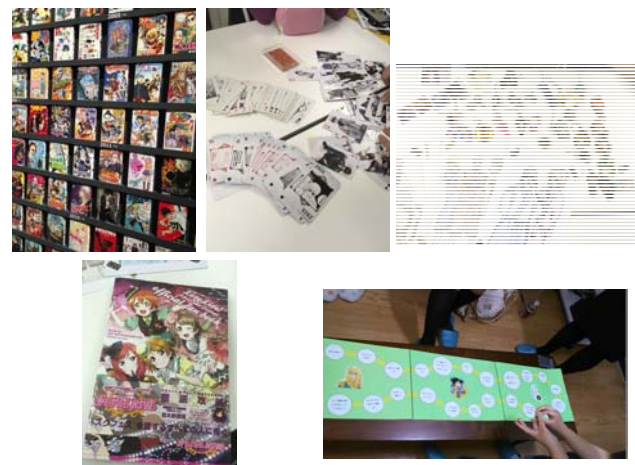
81



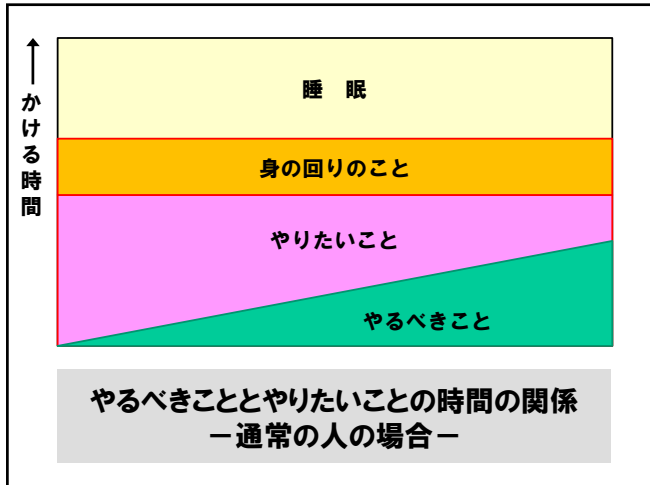
82



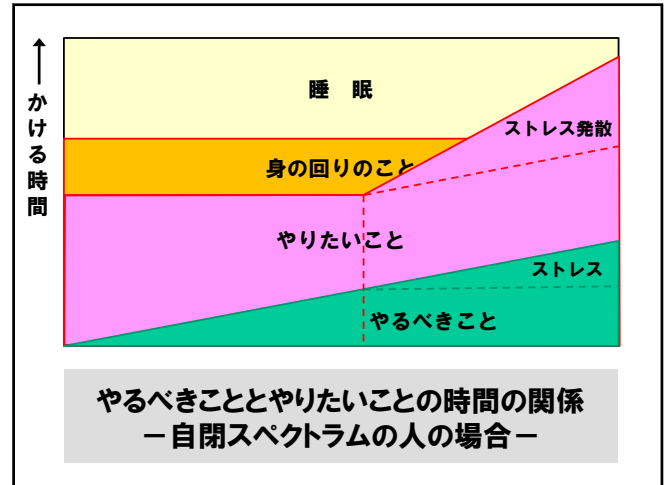
83



84



85



86

自閉スペクトラムの人の健康でハッピーな生き方

- プライベートタイムを最優先する
- やりたいことから順にやる
- 睡眠はちゃんととる
- やるべきとわかっていても気が進まないことは、余った時間にする

87

自閉スペクトラム, ADHDの人たちの生活設計

Work-Life Balance ではなく

Duty-Fun Balance で考える

88

発達障害の人たちの就労スローガン

- 仕事は遊び半分でやれ
- 仕事は休み休みやれ
- スタートダッシュは、絶対にするな

89

発達障害の人にとって能力と収入は比例するとは限らない

金運に恵まれない人は、

正々堂々と福祉制度を利用しよう！

90

支援者の役割

少数派である発達障害の人たちと

多数派向けに構成された社会との

インターフェイス



91

参考図書

専門家向け

「アスペルガー症候群のある子どものための 新 キャリア教育
—小・中学生のいま、家庭と学校でできること—」

本田秀夫, 日戸由刈(編著) 金子書房 (2013年)

「子どもから大人への発達精神医学—自閉症スペクトラム・
ADHD・知的障害の基礎と実践」

本田秀夫(著) 金剛出版 (2013年)

「発達障害の早期発見・早期療育・親支援」

本田秀夫(編著) 金子書房 (2016年)

「知的障害・発達障害のある子どもの住まいの工夫ガイドブック

—危ない! 困った! を安全・安心に—」

西村顕, 本田秀夫(著) 中央法規(2016年)



92

参考図書

専門家向け

「知ってほしい 乳幼児から大人までのADHD・ASD・LD ライフサイ
クルに沿った 発達障害支援ガイドブック」

齊藤万比古, 小枝達也, 本田秀夫(編集)

診断と治療社(2017年)

「こころの医学入門: 医療・保健・福祉・心理専門職をめざす
人のために」

近藤直司, 田中康雄, 本田秀夫(編集)

中央法規 (2017年)

「自閉スペクトラム症の理解と支援 —子どもから大人までの
発達障害の臨床経験から」

本田秀夫(著) 星和書店 (2017年)



93

参考図書

一般向け

「自閉症スペクトラム—10人に1人が抱える「生きづらさ」の正体—」

本田秀夫(著) SB新書 (2013年)

「自閉症スペクトラムがよくわかる本」

本田秀夫(監修) 講談社 (2015年)

「大人の自閉症スペクトラム」(DVDセット全3巻)

本田秀夫(監修) NHK厚生文化事業団 (2016年)

「なぜアーティストは生きづらいのか? —個人的すぎる才能の活かし方—」

手島将彦, 本田秀夫(著) リットーミュージック (2016年)



94

参考図書

一般向け

「自閉症スペクトラムの子のソーシャルスキルを育てる本—幼児・小学生編」

本田秀夫, 日戸由刈(監修) 講談社 (2016年)

「自閉症スペクトラムの子のソーシャルスキルを育てる本—思春期編」

本田秀夫, 日戸由刈(監修) 講談社 (2016年)

「ADHDの子の育て方のコツがわかる本」

本田秀夫, 日戸由刈(監修) 講談社 (2017年)

「ひとりひとりの個性を大事にする にじいろ子育て」

本田秀夫 講談社 (2018年)



95

参考図書

一般向け

「発達障害がよくわかる本」

本田秀夫(監修) 講談社 (2018年)

「発達障害—生きづらさを抱える少数派の「種族」たち—」

本田秀夫(著) SB新書 (2018年)

「最新図解 女性の発達障害サポートブック」

本田秀夫, 植田みおり(著) ナツメ社 (2019年)

「あなたの隣の発達障害」

本田秀夫(著) 小学館 (2019年)



96